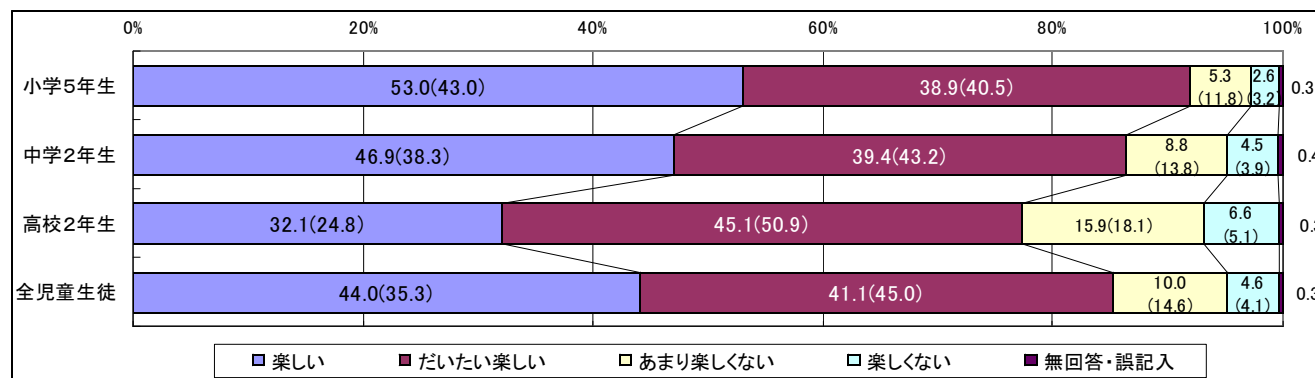


## II 学校生活に対する意識

### 1 学校の楽しさ 【小学5年生…問14】【中学2年生…問14】【高校2年生…問14】

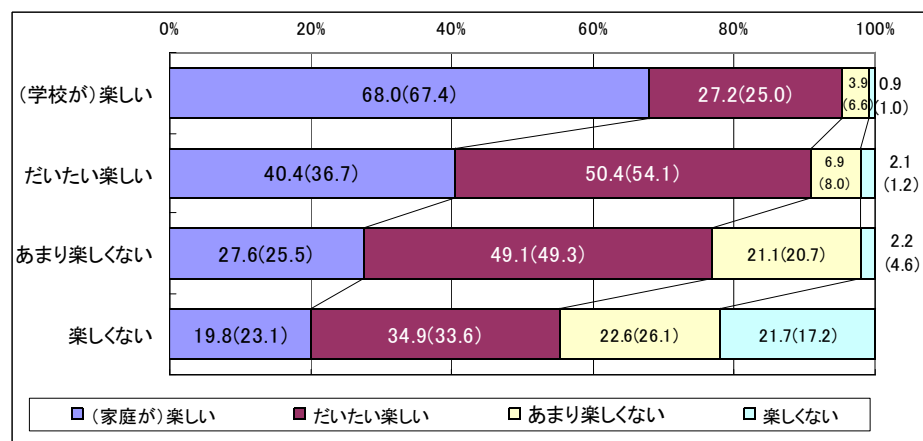
あなたは、学校生活が楽しいですか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。  
 (1) 楽しい (2) だいたい楽しい (3) あまり楽しくない (4) 楽しくない



- 学校生活が「楽しい」+「だいたい楽しい」と回答した割合を、平成14年度と比較すると、小5 8.4ポイント、中2 4.8ポイント、高2 1.5ポイント増加している。「あまり楽しくない」+「楽しくない」が小5では7.9%となり、7.1ポイントの減少であったが、高2においては、ほとんど変わりがなく22.5%であり、約4人に1人の割合である。

### ◇「学校の楽しさ」と「家庭の楽しさ」〔I 家庭生活 (P. 14)〕との関係【クロス集計】

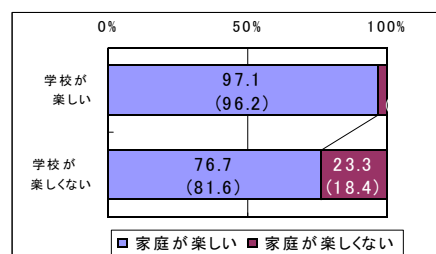
#### ①全児童生徒



- 学校が「楽しい」「だいたい楽しい」と答えた児童生徒のうち、それぞれ95.2%、90.8%が家庭を楽しんでいる。「楽しい」+「だいたい楽しい」と回答している。学校が「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた児童生徒は、それぞれ23.3%、44.3%が家庭を楽しんでいない。「あまり楽しくない」+「楽しくない」と回答している。これは平成14年度と同様の傾向である。

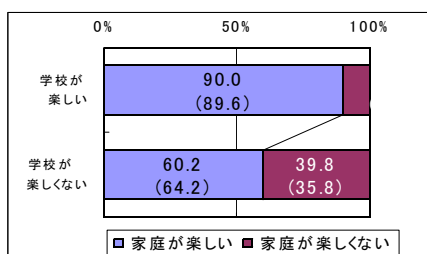
#### ②校種別

##### 【小学5年生】



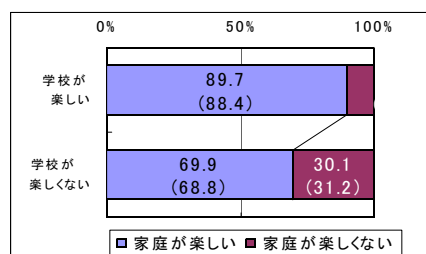
- 学校が楽しい 712人
- 学校が楽しくない 60人

##### 【中学2年生】



- 学校が楽しい 691人
- 学校が楽しくない 88人

##### 【高校2年生】



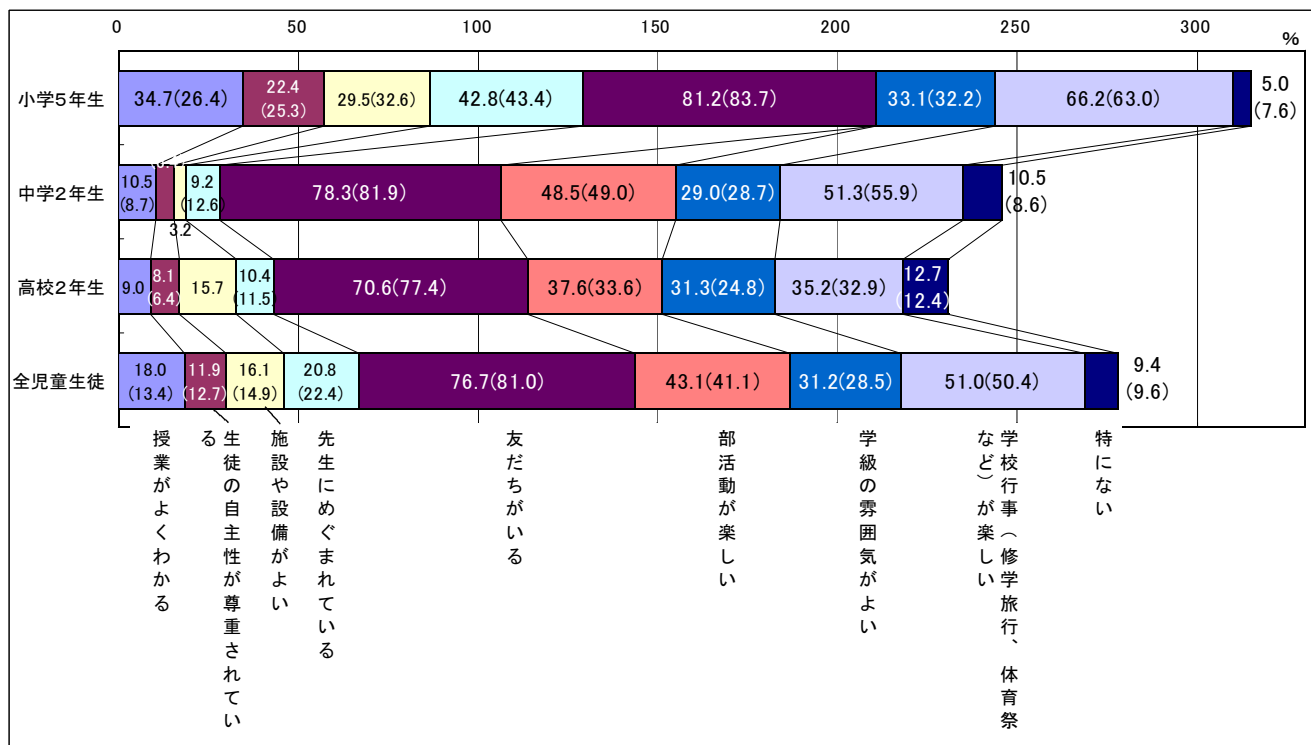
- 学校が楽しい 593人
- 学校が楽しくない 173人

- 平成14年度と同様の傾向である。

## 2 学校生活満足の理由 【小学5年生…問15】【中学2年生…問15】【高校2年生…問15】

あなたが、学校生活で満足に思っているのは、どういう点ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を教えてください。

- (1) 授業がよくわかる (2) 生徒の自主性が尊重されている (3) 施設や設備がよい  
 (4) 先生にめぐまれている (5) 友だちがいる (6) 部活動が楽しい  
 (7) 学級の雰囲気がよい (8) 学校行事(修学旅行、体育祭など)が楽しい (9) 特にない



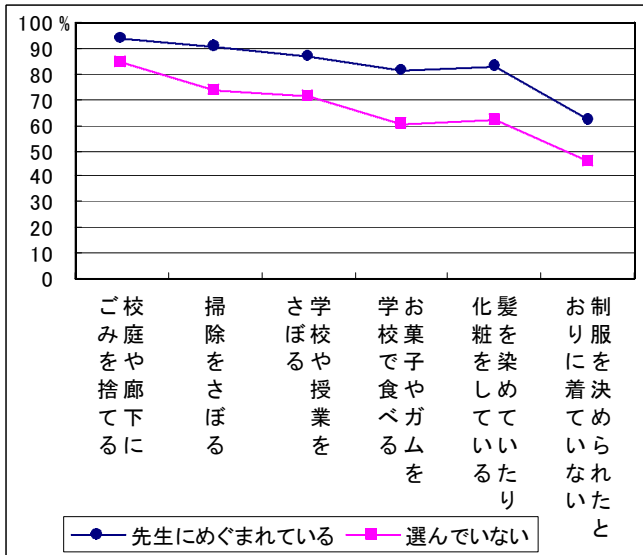
- 全校種ともに最も割合が高いのが、「友だちがいる」である。次に高いのは、小5では、「学校行事が楽しい」「先生にめぐまれている」、中2では「学校行事が楽しい」「部活動が楽しい」、高2では「部活動が楽しい」「学校行事が楽しい」となっている。これは平成14年度と同じである。

◇「先生との相性」と「友だちの行為に対する感じ方」「授業中の行為に対する感じ方」〔IV 規範意識 (P. 53~55, P. 61~63)〕との関係【クロス集計】

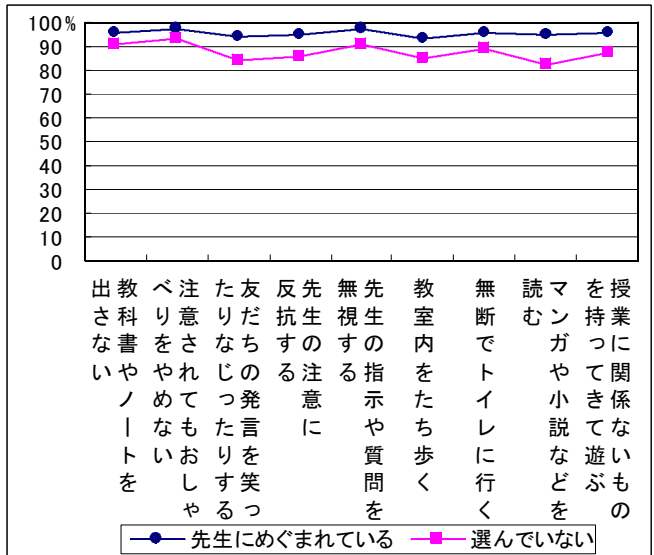
「先生との相性」は「学校生活満足の理由」の「先生にめぐまれている (いい先生がいる)」を選択したものと、そうでないものの二つに分け、「友だちの行為に対する感じ方」の各項目については、「いやな感じがする」(とても+どちらかといえば)群と、「気に入らない」(あまり+まったく)群の二つ、「授業中の行為に対する感じ方」の各項目については「悪いと思う」(とても+どちらかといえば)群と、「悪くないと思う」(どちらかといえば+まったく)群の二つに分けて分析した。

①各項目における意識

【友だちの行為に対する感じ方…いやな感じ】



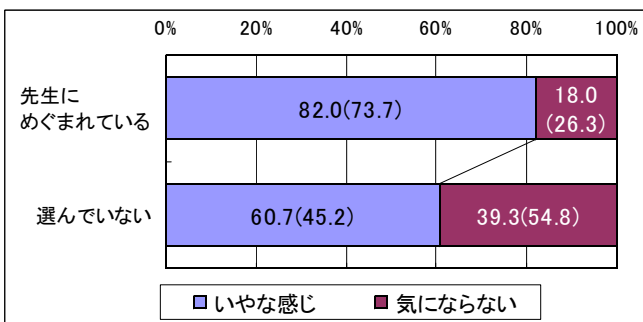
【授業中の行為に対する感じ方…悪いと思う】



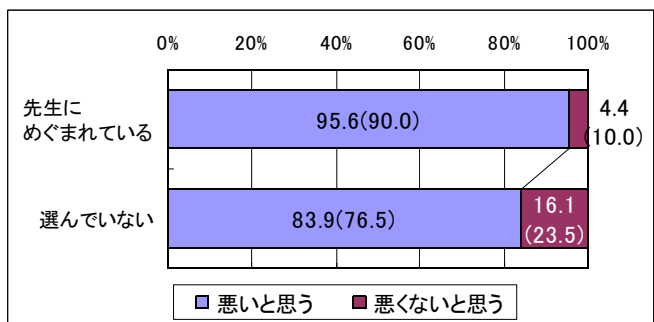
- 「先生にめぐまれている (いい先生がいる)」と回答した群が、選択していない群よりも、「いやな感じ」「悪いと思う」と回答した割合がすべての項目において高い。

②平成14年度に顕著な傾向を示した項目における平成19年度の結果

【お菓子やガムを学校で食べる】



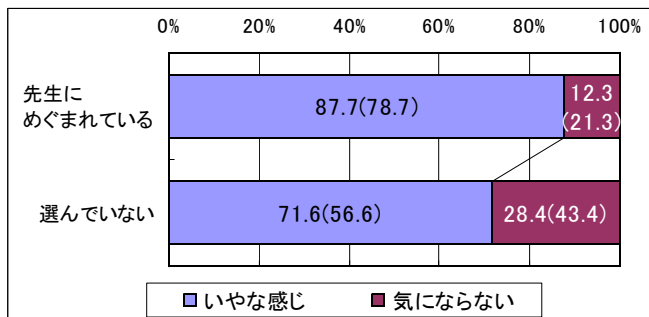
【(授業中に) マンガや小説などを読む】



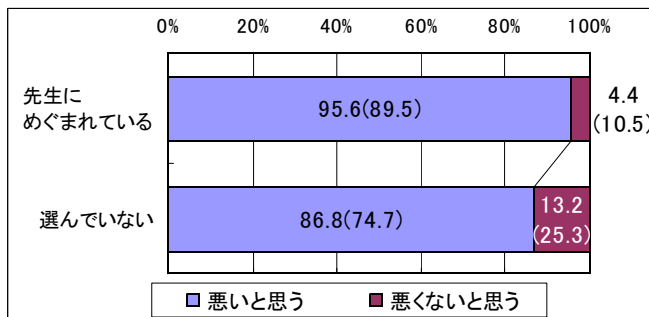
○先生にめぐまれている 482人 選んでいない 1835人 ○先生にめぐまれている 482人 選んでいない 1819人

- 「お菓子やガムを学校で食べる」「(授業中に) マンガや小説などを読む」のそれぞれについて、「いやな感じ」「悪いと思う」と回答した割合は、先生に「めぐまれている」と選択した群、選択していない群ともに増加し、その差が縮まっている。

### 【学校や授業をさぼる】



### 【先生の注意に反抗する】



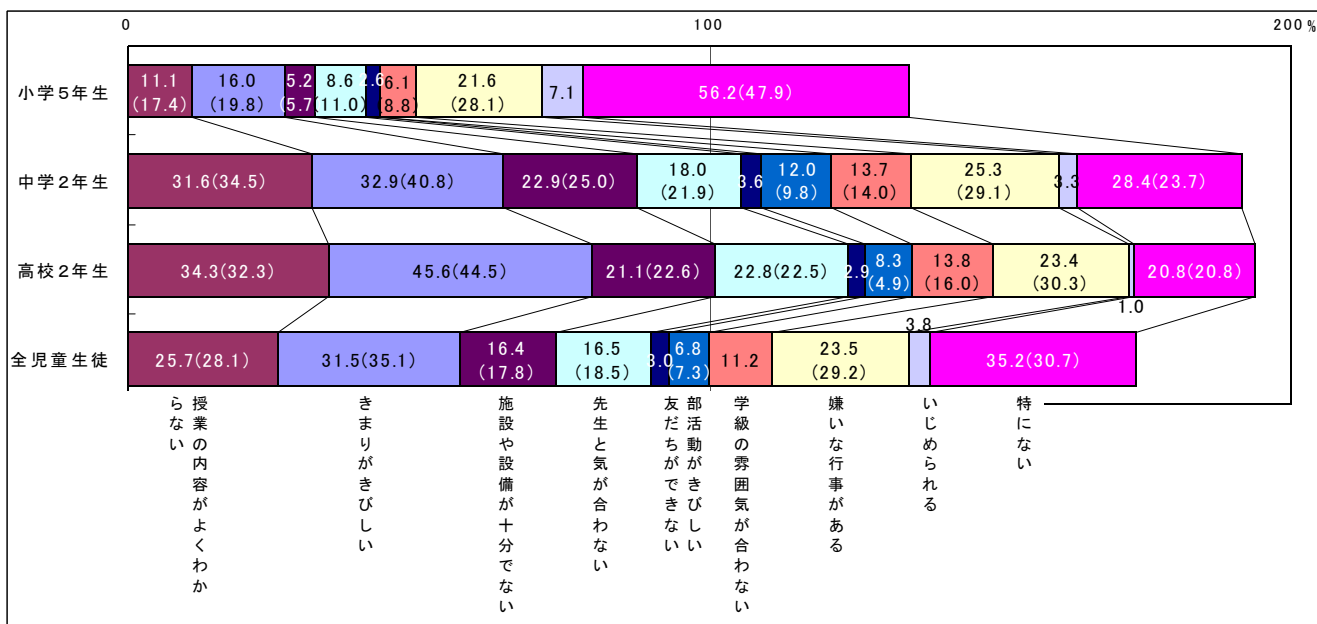
○先生にめぐまれている 481人 選んでいない 1834人 ○先生にめぐまれている 482人 選んでいない 1822人

- 「学校や授業をさぼる」「先生の注意に反抗する」のそれぞれについて、「いやな感じ」「悪いと思う」と回答した割合は、先生に「めぐまれている」と選択した群、選択していない群ともに増加し、その差が縮まっている。

### 3 学校生活不満の理由 【小学5年生…問16】【中学2年生…問16】【高校2年生…問16】

あなたが、学校生活で不満に思っているのは、どういう点ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を教えてください。

- (1) 授業の内容がよくわからない
- (2) きまりがきびしい
- (3) 施設や設備が十分でない
- (4) 先生と気が合わない
- (5) 友だちができない
- (6) 部活動がきびしい
- (7) 学級の雰囲気が合わない
- (8) 嫌いな行事がある
- (9) いじめられる
- (10) 特にない

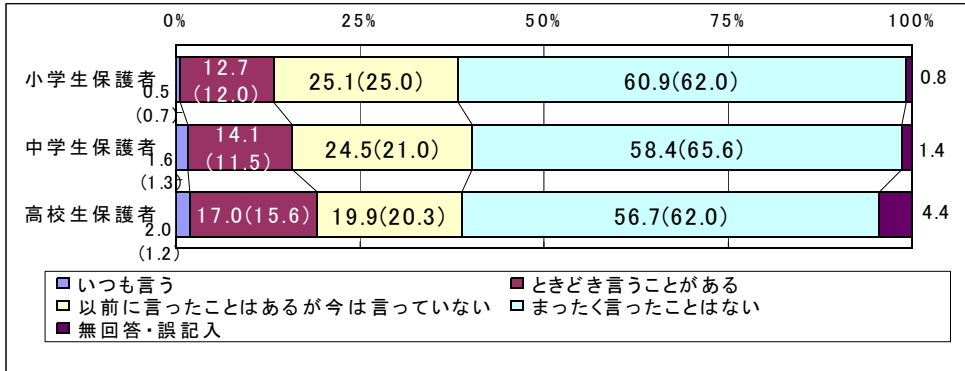


- 全児童生徒において、学校生活不満の理由で最も高いのは「きまりがきびしい」(31.5%)であり、次いで「授業の内容がよくわからない」(25.7%)「嫌いな行事がある」(23.5%)の順となっている。「いじめられる」と回答した児童生徒の割合は、小5 7.1%、中2 3.3%、高2 1.0%である。今後ともいじめ根絶に向けての取組が求められる。
- 小5における不満の理由は、「嫌いな行事がある」「きまりがきびしい」「授業の内容がよくわからない」であり、中2、高2における不満の理由は、「きまりがきびしい」「授業の内容がよくわからない」「嫌いな行事がある」の順となっている。これは平成14年度と同じである。

#### 4 学校に行きたくないことの頻度 【保護者…問14】

子どもさんは「学校に行きたくない。」と言ったりすることはありますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- (1) いつも言う (2) ときどき言うことがある  
 (3) 以前に言ったことはあるが今は言っていない (4) まったく言ったことはない

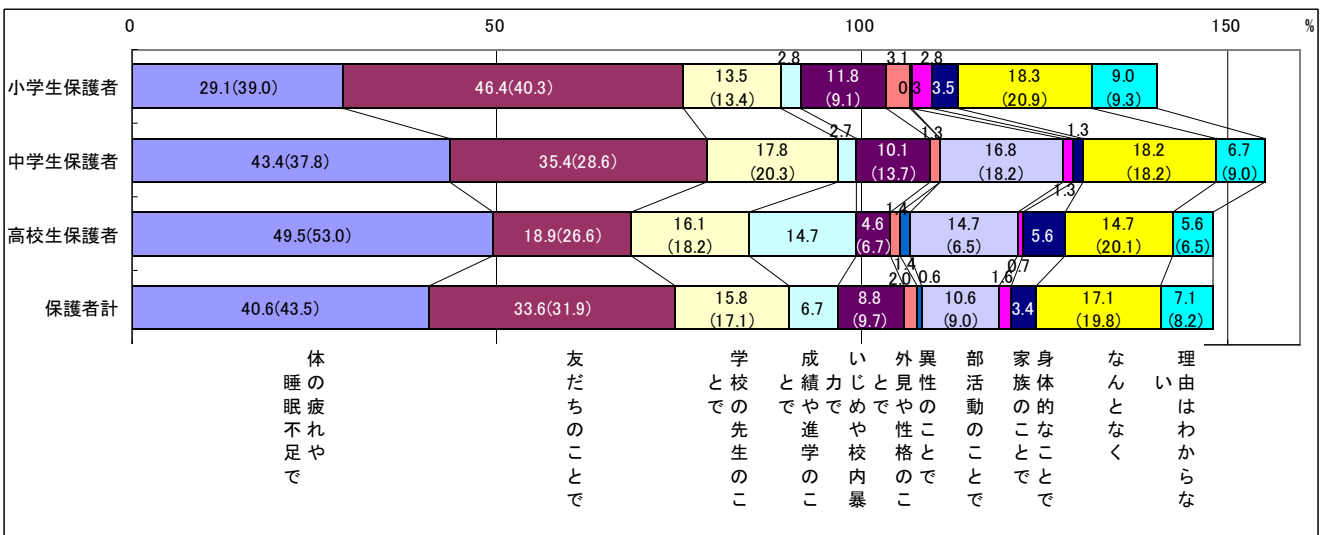


●平成14年度と比較すると、「まったく言ったことはない」と回答した保護者は、小学生保護者で1.1ポイント、中学生保護者で7.2ポイント、高校生保護者で5.3ポイント減少した。

#### 5 学校に行きたくない理由 【保護者…問15】

問14で(1),(2)または(3)を選んだ方のみお答え下さい。子どもさんが学校に行きたくなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものを二つまで選んで番号を教えてください。

- (1) 体の疲れや睡眠不足で (2) 友だちのことで (3) 学校の先生のこと  
 (4) 成績や進学のこと (5) いじめや校内暴力で (6) 外見や性格のこと  
 (7) 異性のことで (8) 部活動のこと (9) 家族のこと  
 (10) 身体的なこと (11) なんとなく (12) 理由はわからない

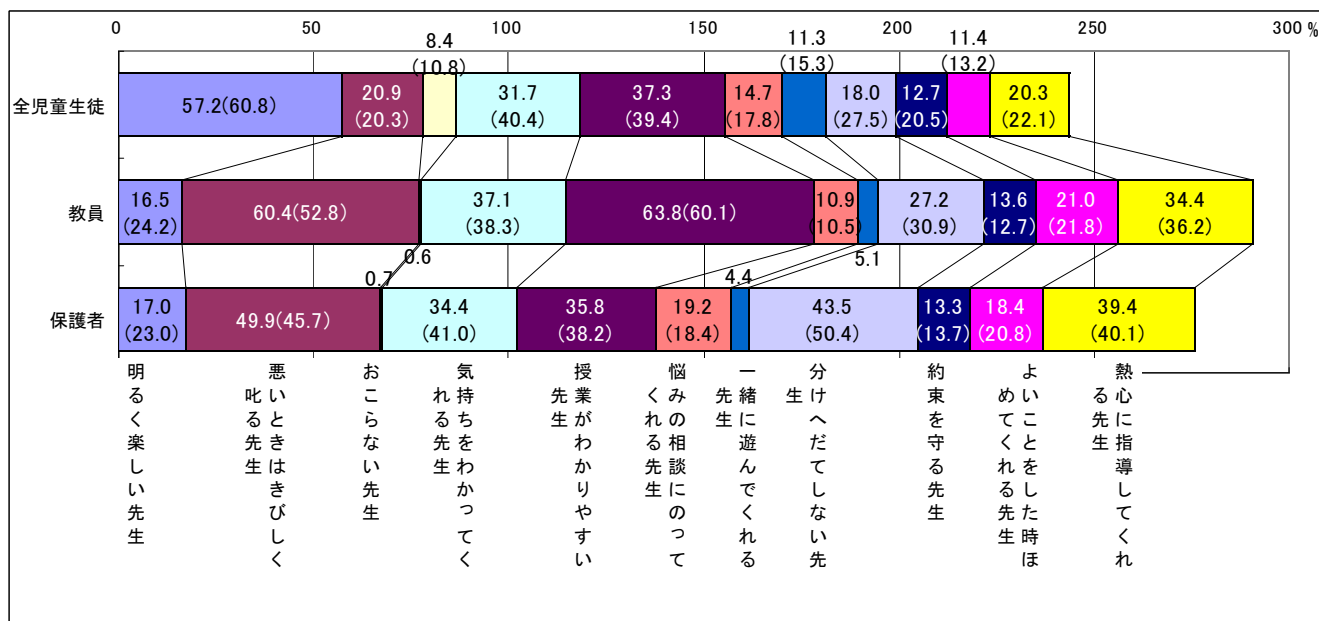


- 学校に行きたくない理由について、保護者全体で割合が高いのは「体の疲れや睡眠不足で」(40.6%)「友だちのことで」(33.6%)「なんとなく」(17.1%)「学校の先生のこと」(15.8%)の順となっている。「体の疲れや睡眠不足で」は学年が上がるにつれて増加し、「友だちのことで」は学年が上がるにつれて減少している。
- 平成14年度と比較すると、「学校に行きたくない理由」を回答した項目は、1位から4位まで同じである。平成14年度に7位であった「部活動のこと」が5位に、5位の「成績や進学のこと」が7位へと入れ替わった。

6 よい先生 【小学5年生…問17】【中学2年生…問17】【高校2年生…問17】  
【教員…問10】【保護者…問17】

あなた（児童生徒／子どもさん）にとって、よい先生とはどんな先生ですか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで番号を教えてください。

- (1) 明るく楽しい先生
- (2) 悪いときはきびしく叱る先生
- (3) おこらない先生
- (4) 気持ちをわかってくれる先生
- (5) 授業がわかりやすい先生
- (6) 悩みの相談にのってくれる先生
- (7) 一緒に遊んでくれる先生
- (8) 分けへだてしない先生
- (9) 約束を守る先生
- (10) よいことをしたときほめてくれる先生
- (11) 熱心に指導してくれる先生

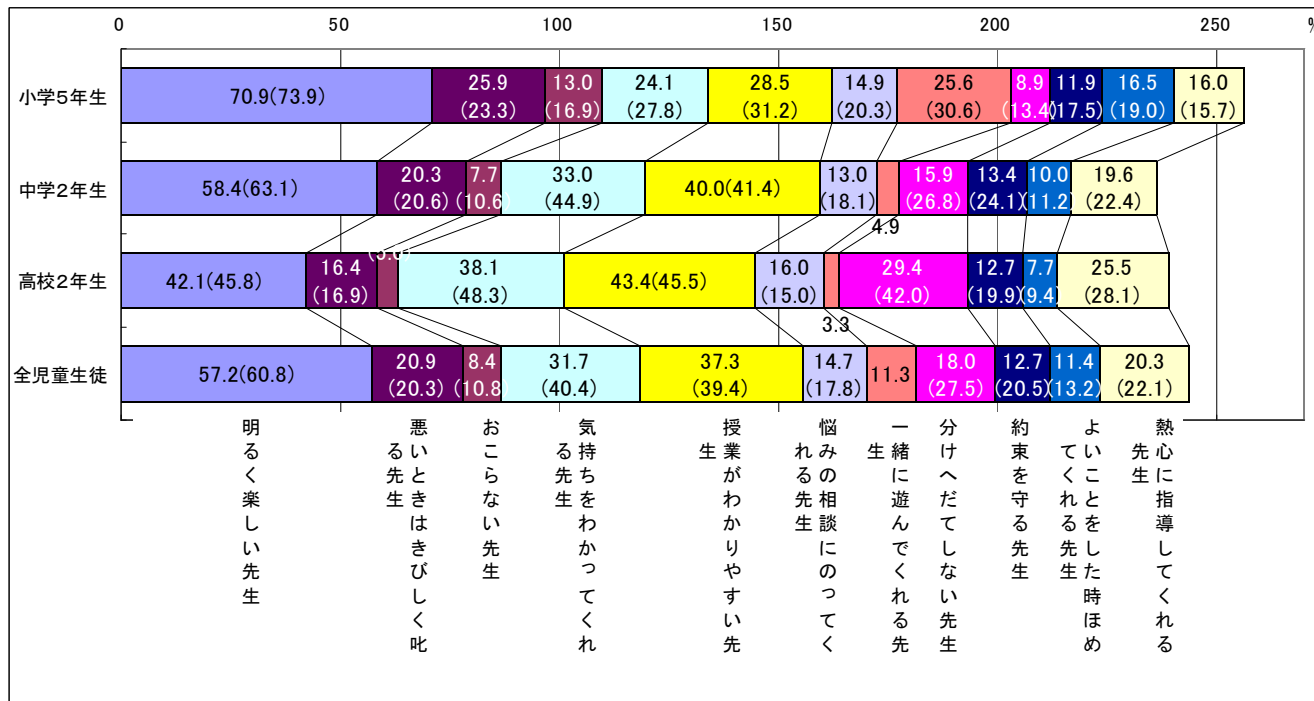


よい先生（割合の高い項目）の比較

	平成14年度			平成19年度		
	1	2	3	1	2	3
児童生徒	明るく楽しい先生 (60.8%)	気持ちをわかってくれる先生 (40.4%)	授業がわかりやすい先生 (39.4%)	明るく楽しい先生 (57.2%)	授業がわかりやすい先生 (37.3%)	気持ちをわかってくれる先生 (31.7%)
教員	授業がわかりやすい先生 (60.1%)	悪いときはきびしく叱る先生 (52.8%)	気持ちをわかってくれる先生 (38.3%)	授業がわかりやすい先生 (63.8%)	悪いときはきびしく叱る先生 (60.4%)	気持ちをわかってくれる先生 (37.1%)
保護者	分けへだてしない先生 (50.4%)	悪いときはきびしく叱る先生 (45.7%)	気持ちをわかってくれる先生 (41.0%)	悪いときはきびしく叱る先生 (49.9%)	分けへだてしない先生 (43.5%)	熱心に指導してくれる先生 (39.4%)

- 教員の場合、割合の高い3項目の順位に変化はない。
- 平成14年度と比較すると、2位であった保護者の「悪いときはきびしく叱る先生」が、平成19年度は1位となっている。

◇校種別

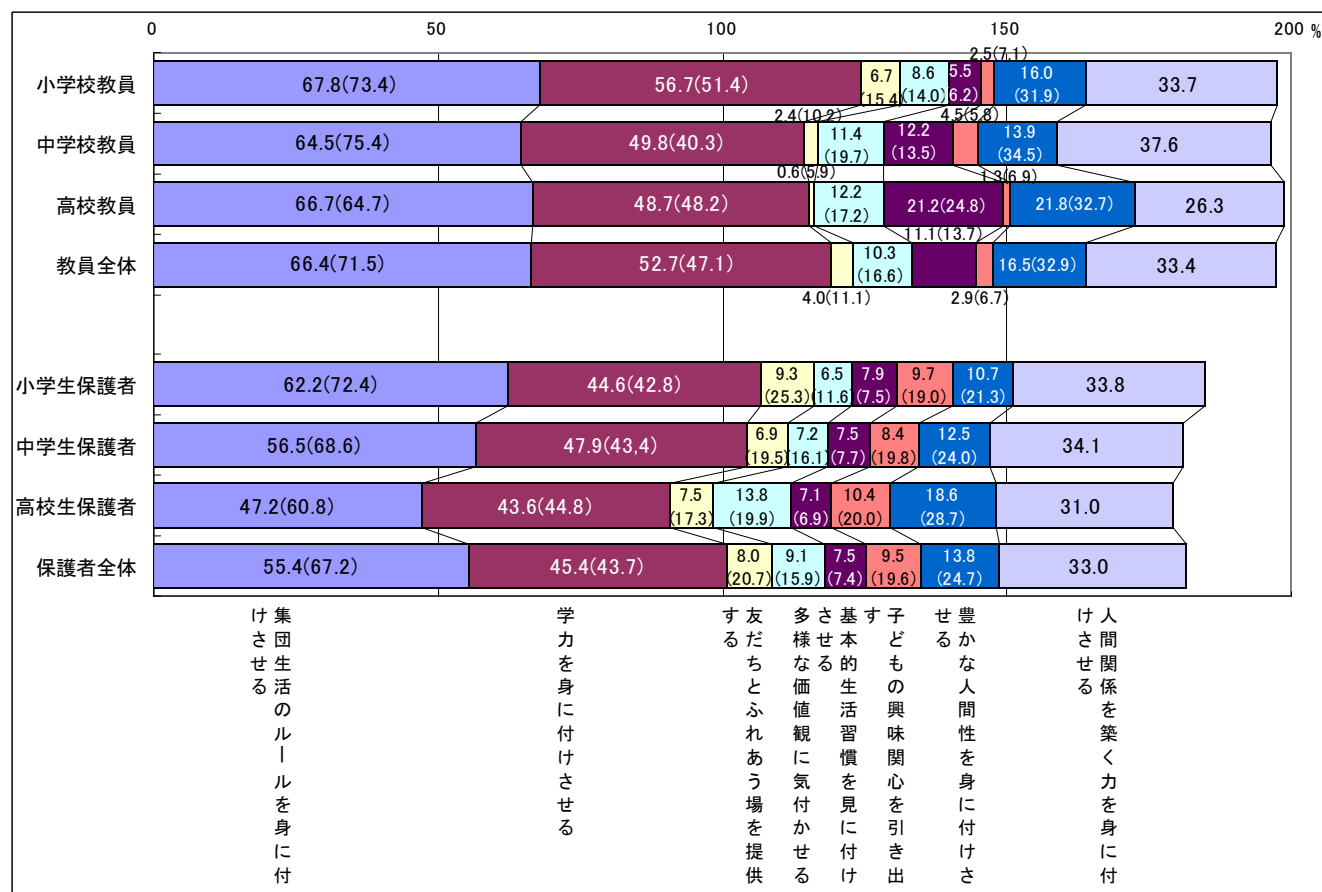


- 各校種において、回答の割合の高い順に、小5では「明るく楽しい先生」(70.9%)「授業が分かりやすい先生」(28.5%)「悪いときはきびしく叱る先生」(25.9%)であり、中2では「明るく楽しい先生」(58.4%)「授業が分かりやすい先生」(40.0%)「気持ちを分かってくれる先生」(33.0%)、高2では「授業が分かりやすい先生」(43.4%)「明るく楽しい先生」(42.1%)「気持ちを分かってくれる先生」(38.1%)である。
- 学年が上がるにつれて回答の割合が高くなるのは、「気持ちを分かってくれる先生」「授業が分かりやすい先生」「分けへだてしない先生」「熱心に指導してくれる先生」である。学年が上がるにつれて回答の割合が低くなるのは、「明るく楽しい先生」「悪いときはきびしく叱る先生」「おこらない先生」「一緒に遊んでくれる先生」である。小5では「明るく楽しい先生」が求められているのに対して、中2・高2と学年が上がるにつれて「授業がわかりやすい先生」が求められる。「気持ちを分かってくれる先生」については、どの校種においても求められている割合が高い(24.1%~38.1%)。平成14年度と同様の傾向である。

## 7 学校の役割 【教員…問8】【保護者…問12】

子どもが育つ上で学校はどのような役割を果たさねばならないと思いますか。次の中から二つ選んで番号を答えてください。

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| (1) 集団生活のルールを身に付けさせる | (2) 学力を身に付けさせる       |
| (3) 友達とふれあう場を提供する    | (4) 多様な価値観に気付かせる     |
| (5) 基本的な生活習慣を身に付けさせる | (6) 子どもの興味関心を引き出す    |
| (7) 豊かな人間性を身に付けさせる   | (8) 人間関係を築く力を身に付けさせる |



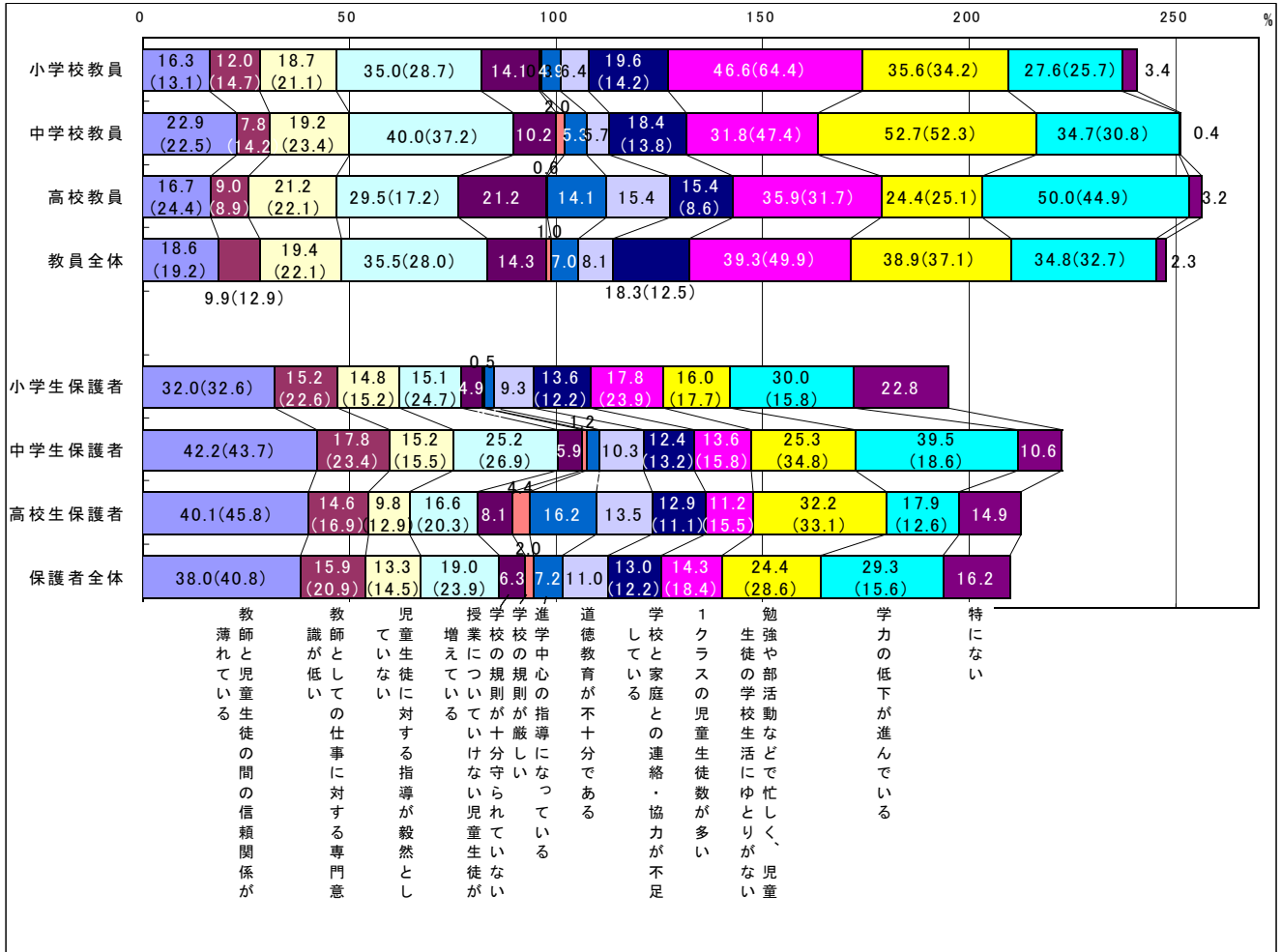
- 学校の役割として、「集団生活のルールを身に付けさせる」（教員全体66.4% 保護者全体55.4%）、「学力を身に付けさせる」（教員全体 52.7% 保護者全体 45.4%）、「人間関係を築く力を身に付けさせる」（教員全体33.4% 保護者全体33.0%）という項目が共通して上位3位を占めた。
- 平成14年度と比較すると、上位2項目は同じである。今回新たに設けた「人間関係を築く力を身に付けさせる」の回答の割合が教員、保護者全体とも3位となり、いずれも30.0%を超えていることを踏まえると、学校の役割として人間関係を築く力を身に付けさせる積極的な取組が期待されていることがうかがえる。



8 学校についての問題 【教員…問9】【保護者…問13】

学校について問題だと思う点があれば、次の中から三つまで選んで番号を教えてください。

- (1) 教師と児童生徒の間の信頼関係が薄れている
- (2) 教師としての仕事に対する専門意識が低い
- (3) 児童生徒に対する指導が毅然としていない
- (4) 授業についていけない児童生徒が増えている
- (5) 学校の規則が十分守られていない
- (6) 学校の規則が厳しい
- (7) 進学中心の指導になっている
- (8) 道徳教育が不十分である
- (9) 学校と家庭との連絡・協力が不足している
- (10) 1クラスの児童生徒数が多い
- (11) 勉強や部活動などで忙しく、児童生徒の学校生活にゆとりがない
- (12) 学力の低下が進んでいる
- (13) 特にない



- 教員全体で割合が最も高いのは「1クラスの児童生徒数が多い」であり、次いで「勉強や部活などで忙しく、児童生徒の学校生活にゆとりがない」「授業についていけない児童生徒が増えている」「学力の低下が進んでいる」(34.8%～39.3%)の順となっている。保護者全体で割合が最も高いのは「教師と児童生徒の間の信頼関係が薄れている」であり、次いで「学力の低下が進んでいる」「勉強や部活などで忙しく、児童生徒の学校生活にゆとりがない」「授業についていけない児童生徒が増えている」(19.0%～38.0%)の順となっている。
- 平成14年度と比較すると、教員全体の上位4項目は同じである。保護者全体の上位4項目については「教師としての専門意識が低い」に替わって、「学力の低下」(平成14年度7位)が加わった。他の3項目は同じである。保護者は「学力の低下」を大きな問題としてとらえていることがうかがえる。
- 「授業についていけない児童生徒が増えている」と「学力の低下が進んでいる」について、教員全体と保護者全体の回答の割合を比較してみると、「授業についていけない児童生徒が増えている」は16.5ポイント差(教員全体 35.5%, 保護者全体 19.0%)であり、「学力の低下が進んでいる」は5.5ポイント差(教員全体 34.8%, 保護者全体 29.3%)である。教員と保護者の認識の違いがあることを考えると、学校における教育活動の情報を積極的に保護者へ発信していくことが求められる。